

図書案内

2018年 1月号

担当 1-1H 篠田 1-7H 吉川

理系作家
東野圭吾が描く

人間の心理描写がすごい本

AI や科学技術は発展の一途をたどり、生活は便利になりましたが、少し怖い気もします。しかし、本の中には AI では考えつかない人間の持つ恐ろしい心理を描いた作品が数多く存在します。今回はその中でも大人気の東野圭吾の作品を紹介します。大阪府立大学電気工学科卒業後、エンジニアとして働いた経歴のある作家ならではの理系トリックに加え、細やかな心理描写が人気の秘密。初めての人も気軽に読むことができます。ぜひ本を手にとって楽しんでください。図書館にて貸出しています。



『ラプラスの魔女』

「いつかは国家クラスの要人警護をしてみたい」と願う元警官・武尾徹は、警護する対象である 18 歳の少女・羽原円華と出会い、彼女の持つ不思議な《力》を疑いはじめる。同じ頃、2つの温泉地で硫化水素事故が起きていた。検証に赴いた研究者・青江は双方の現場で円華を目撃し――。

2018年5月映画化！ 主演は櫻井翔、広瀬すず、福士蒼汰。

細い雨が降っていた。今朝からずっと空の色は暗いままだ。青江は窓際に立ち、ぼんやりと外を眺めながら、円華や甘粕謙人なら、この鬱陶しい雨がやむ時刻も正確に予想できるのだろうと考えた。

「ラプラスの魔女」タイトルはピエール=シモン・ラプラスの

「確率の解析的理論」が由来？



確率論と微積分を結びつけた数学者であり天文学者・ピエール=シモン・ラプラス。彼は上記の書中で、「人生で最も重要な問題は、ほとんどの場合、実際には単なる確率の問題なのである」と述べている。この「全てを知っており、未来も予見している知性」のことは「神」とよばれていたが、後世では神学と区別するため、この理論は「ラプラスの霊」「ラプラスの悪魔」という名前が定着していった。未来すら予見する力というところに「ラプラスの魔女」と共通項を感じませんか？

【出典】『ビジュアル数学全史』クリフォード・ピックオーバー 岩波書店 2017年



『パラドックス 13』

ブラックホールによる謎の現象、P-13現象により、東京は廃墟と化し、町から人が消えた。残されたのは年齢も職業も様々な13人の男女。奇妙な状況の中、追い打ちをかけるように疫病や災害が襲う。なぜ彼らを選ばれたのか、そしてP-13現象とはいったい何なのか。

「日本時間で、三月十三日の午後一時十三分十三秒」大月がメモを見ながらいった。「それから十三秒間、地球にとって運命の時間だ」

タイムスリップは可能か？

1915年、ドイツの天文学者、天体物理学者であるカール・シュバルツシルトは、ブラックホールの先は、もうひとつ別の宇宙につながっていると考えた。この大きく離れたふたつの場所のあいだを近道する空間のことを「ワームホール」という。この理論を発展させたのがアメリカの理論物理学者のキップ・ソーン。彼は宇宙の2点を「ワームホール」で結び、通り抜ける理論を展開した。まず、宇宙の2つの地点(AとB)を「ワームホール」で結び、次にBの地点のみ光速に近い速さで移動させると、相対性理論によりBの地点はAの地点より時間が遅く流れる。この時、Aの地点を出発してBの地点まで光速に近い速さで移動し、そしてワームホールを通過してAの地点へ出ると、そこは過去の世界である。アインシュタインの『相対性理論』からはじまったこの研究、AIの進歩で実現する日は近いかも！

【出典】<http://www.tus.ac.jp/rikanomoto/enjoy/travel/>



『どちらかが彼女を殺した』

最愛の妹・園子の感電死体が発見される。兄の康正は、この事件が自殺を偽装した殺人であると知り、犯人への復讐を決意する。容疑者は二人。一人は彼女の恋人、もう一人は親友。一方、刑事加賀恭一郎は復讐を阻止するために康正に立ちはだかる。本編では明かされない犯人の正体。あなたはこの事件を解決することができますか？

彼か佳世子のどちらかが――。園子は不吉な空想をした。どちらかがあたしを殺してくれればいいのに、と。その時だ。玄関のチャイムが鳴った。



『素敵な日本人』

この本は30頁ほどで1つの話が構成される短編集。特におすすめなのが、「クリスマスミステリ」という作品です。これは、主人公が付き合っていた女性を殺害しようとするが、途中でその彼女が謎の死を遂げます。主人公の心理的变化やいきなりの急展開に目が離せません。一気に読み間違いなし！

黒須は周囲を見渡し、人目がないことを確認してから門柱に近づいた。これまでも用心してきたことだが、今日は特に細心の注意が必要だ。